

—牧師室から—

洋光台集会でコリントの信徒への手紙一・二を学び終えた。パウロはアテネのアレオバゴスで、哲学者たちを相手に知恵を尽くして説教した。最後にパウロの説教の核心である「イエスの復活」を語ったところ、哲学者たちから「いずれまた聞かせてもらうことにしよう」とあざ笑われた。傷心の思いでアテネを去り、コリントの町に来た。コリントでは知恵を捨て「十字架の言葉の愚かさ」に徹して宣教した。パウロの弱さの中で働かれるキリストの力を証したのである。その宣教が人々の感動を呼び、コリント教会が誕生した。ところが、パウロがコリント教会を去った後、教会は混乱を極めた。良港に恵まれたコリントは経済的には発展していたが、人心は荒廃しきっていた。その荒廃が教会を直撃したのである。有力者を担ぎあげた分裂と争い、弱く貧しい者への蔑みと差別、偶像礼拝と性的不道徳を賞賛する倫理的乱れ、パウロに対する中傷と非難。

パウロは心を傷め、四度も長い手紙を書いている。

これを読んでまず、聖書は歴史的現実の中で書かれている事実が分かる。具体的な苦悩の中で、血みどろになって語られた言葉である。時代の価値に迎合した序列化と差別に向かう人間の罪に対し、イエス・キリストの十字架の愛を語る。そして福音に立ち戻るように、論し、叱り、又信頼を語り続ける。自分を捨てて、キリストの誉れだけを求める牧会者パウロの言葉は心を打つ。

教会は今も昔も変わらない。人は皆、しばしば病み、疲れ切る。病むことは避けられない。そして病むことは生きている証拠とも言える。しかし、安直な自己義認・固い自己執着と、キリストによる神の「是認」は違う。神の「是認」は、悔い改めによる新生と和解への招きである。「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです」。自分自身で立つことでなく、愚かな十字架に立ち返ることである。

週 報

1991年5月26日 聖霊降臨節第2主日

三位一体主日

卷 12

8号

1991年度教会主題

「神の国は私たちの間にある」

聖句 ファリサイ派の人々が、神の国はいつ来るのかと尋ねたので、イエスは答えて言われた。「神の国は、見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。

ルカによる福音書 17章20節～21節

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
 2. 新会堂を献げ、共に宣教に励む。

日本キリスト教団

横浜港南台教会

会堂 〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電話 045-833-5323

振替 横浜 9-13994

牧師宅 〒235 横浜市磯子区洋光台 5丁目6-3-304

電話 045-833-6616

牧師 秋吉隆佳